

特別支援教育

令和3年度

教育研究員研究報告書

発達障害等教育

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
	1 基礎研究	
	2 実践研究	
V	研究構想図	3
VI	研究の内容	4
	1 基礎研究	
	(1) 学習指導要領の理解	
	(2) 先行研究の分析と活用	
	2 実践研究	
	(1) 観察リストによる実態把握から、背景や要因を見立て、指導目標・指導内容を設定するまでの例	
	(2) 検証授業	
VII	研究の成果と今後の課題	16

## 研究主題

# 身体の使い方に課題のある児童・生徒への 指導の充実に向けて

～児童・生徒の実態把握から要因の見立て、  
指導目標・指導内容の設定までの過程に着目して～

## I 研究主題設定の理由

平成 29 年 2 月に策定された「東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画」の基本理念は、「共生社会の実現に向け、障害のある幼児・児童・生徒の自立を目指し、一人一人の能力を最大限に伸ばして、社会に参加・貢献できる人間を育成」することである。全ての学校において、特別な配慮を必要とする児童・生徒一人一人が、その力を最大限に伸ばできるよう、児童・生徒の障害の状態等に応じて適切な指導を行うことが重要である。

「東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画」に基づき、都内公立小・中学校に「特別支援教室」の導入が進み、平成 30 年 4 月に都内公立小学校で全面実施され、令和 3 年 4 月には都内公立中学校全校への導入が完了した。このような状況から、児童・生徒の障害の状態等に応じた指導・支援の充実が求められている。令和 3 年 3 月発行の「特別支援教室の運営ガイドライン」（東京都教育委員会）では、特別支援教室巡回指導教員には、児童・生徒の困難さの理解と、その困難さを改善するための手だてを見いだすことができる専門性が必要であり、特別支援教室での指導だけではなく、在籍学級における必要な配慮に係る助言や校内委員会への参画等の役割があるとしている。また、同ガイドラインには、発達障害等のある児童・生徒は、通常の学級のみで学んでいる場合があることから、全ての教員が障害の状態等に応じた指導・支援が実施できることが重要であると示している。

例えば、通常の学級において、学習上又は生活上の困難さを有する児童・生徒の中には、体幹の弱さ等の身体の使い方を要因とし、学習への意欲を失いがちな児童・生徒がいる場合がある。また、知的障害や発達に課題のある児童・生徒には「身体の動きがぎこちない」、「姿勢が崩れやすい」等の身体の使い方の面での課題があることも少なくない。そのような児童・生徒に対して、教員が「ちゃんとして」、「よく見て」などの曖昧で抽象的な言葉掛けや、できない動作を繰り返させるだけの指導を行うばかりでは、改善にはつながらず、失敗経験を何度も積み重ねることにより、自己肯定感や学習意欲が低下してしまう児童・生徒もいる。

さらに、一見、身体の使い方の面での課題が似ている児童・生徒がいたとしても、その要因は一人一人異なる場合が多いことから、一人一人の身体の使い方を分析し、その要因や背景を見立て、見立てを踏まえた指導法を検討することが重要である。また、実態から要因を見立てることや要因を踏まえた指導法の工夫をする際には、障害に応じた指導の実践からの知見が必要な場合がある。そのため、全ての教員が実態から要因を適切に見立て、見立てを踏まえた指導ができるよう、実態把握から指導につなげるための過程を明らかにすることで、障害の状態等に応じた指導・支援の充実を図ることが重要であると考えられる。

そこで、本研究においては、身体の使い方に課題のある児童・生徒について、実態把握から要因の見立て、見立てを踏まえた指導目標・指導内容の設定までの過程に着目し、児童・生徒への指導の充実を図る本主題を設定することとした。

## II 研究の視点

本研究では、次の二つの視点から研究に取り組むこととした（図1）。

**視点①** 身体の使用方に課題のある児童・生徒について、実態を分析的に把握し、背景や要因を見立てる過程を明らかにするとともに、見立てをする上で参考となる視点を整理する。

**視点②** 見立てた背景や要因を踏まえ、身体の使用方に関する課題の改善に向けて必要な指導目標・指導内容を検討する過程を明らかにする。

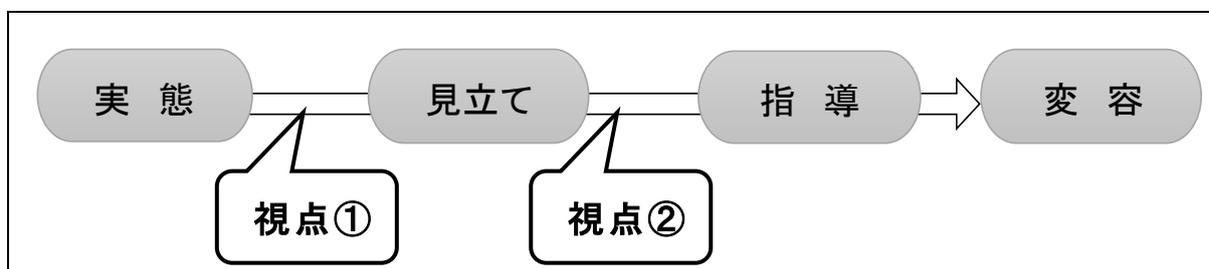


図1 研究の視点

## III 研究の仮説

身体の使用方に課題のある児童・生徒について、実態把握に基づき、身体の使用方の困難さの背景や要因を見立て、見立てを踏まえた指導目標・指導内容の設定までの過程を明らかにすることで、知的障害や発達に課題のある児童・生徒への指導を充実させることができるだろう。

## IV 研究の方法

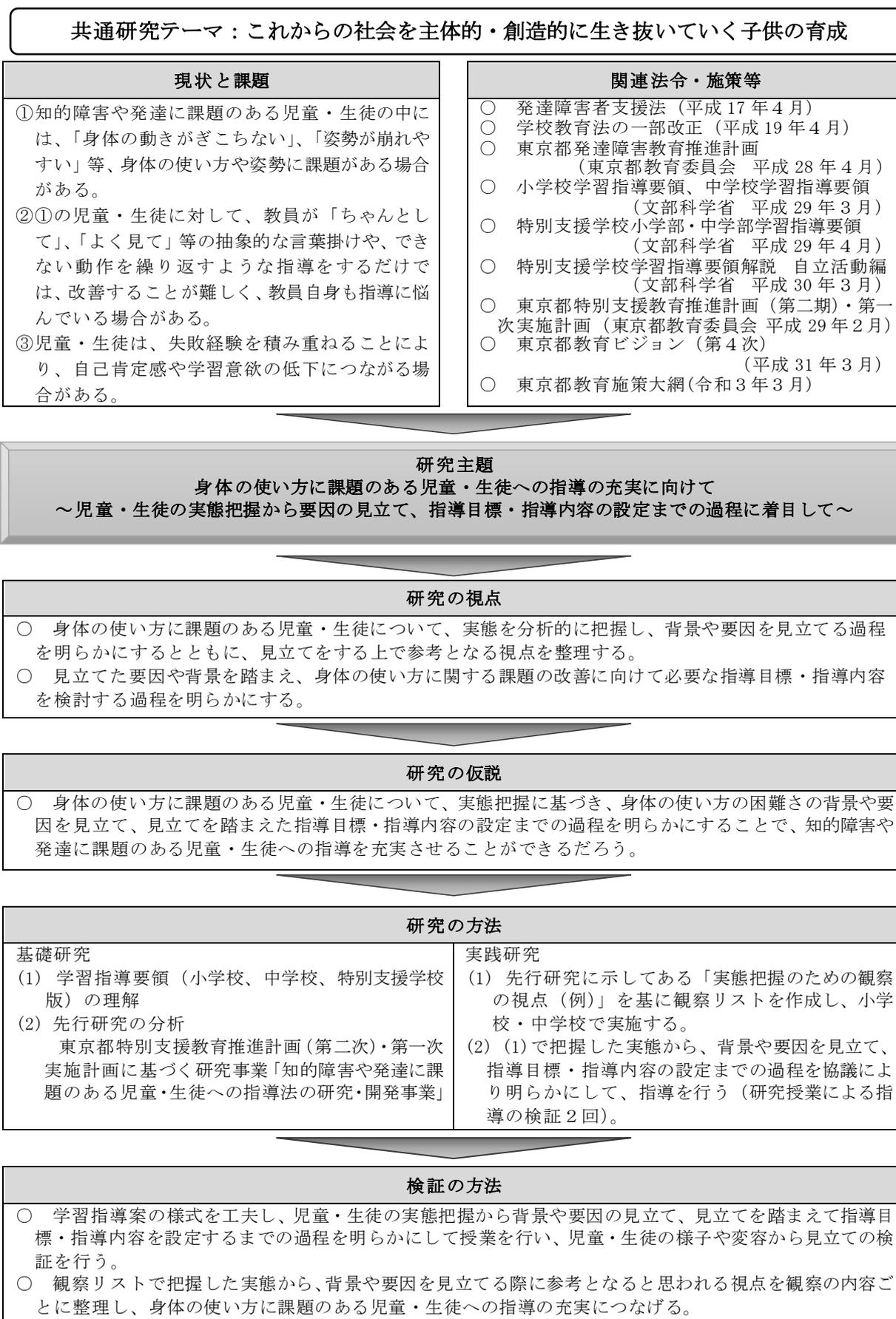
### 1 基礎研究

- 学習指導要領（小学校、中学校、特別支援学校版）の理解
- 東京都特別支援教育推進計画（第二次）・第一次実施計画に基づく研究事業「知的障害や発達に課題のある児童・生徒への指導法の研究・開発事業」（以下「先行研究」と表記。）の分析

### 2 実践研究

- 先行研究に示してある「実態把握のための観察の視点（例）」を基に「身体の使用方に着目した実態把握のための観察リスト」（以下「観察リスト」と表記。）を作成し、小学校・中学校で実施する。
- 観察リストにより把握した実態から、背景や要因を見立て、指導目標・指導内容の設定までの過程を協議により明らかにして、指導を行う（研究授業による指導の検証2回）。

## V 研究構想図



## VI 研究の内容

### 1 基礎研究

#### (1) 学習指導要領の理解

小学校学習指導要領、中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）、特別支援学校学習指導要領（平成 29 年 4 月）や特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成 30 年 3 月）（以下「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」と表記。）において、児童・生徒の身体の使い方に関について示している内容を確認した。

小学校学習指導要領解説総則編及び中学校学習指導要領解説総則編では、特別な配慮を必要とする児童・生徒への指導においては、障害の種類や程度を的確に把握した上で、障害のある児童・生徒などの「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手だて」を検討し、指導に当たっていくことが重要であると示している。

また、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の「5 身体の動き」には、「(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。(4) 身体の移動能力に関すること。(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。」の項目が示しており、「日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点から内容を示している」と明記している。

これらのことから、児童・生徒の身体の使い方の課題に着目した指導の充実を図るには、児童・生徒の実態把握から要因の見立て、指導目標・指導内容の設定までの過程を明らかにし、追究していく必要がある。

#### (2) 先行研究の理解と活用

身体の使い方に課題のある児童・生徒への指導の充実に向けては、児童・生徒の身体の使い方における実態や課題を分析的に把握し、背景や課題の要因を具体的に見立て、その見立てを踏まえた指導を行うことが重要である。また、指導後の変容を受けて、見立てが適切だったかを検討する。望ましい方向に変容していた場合には次の見立て・指導につなげ、十分な成果が得られていない場合には、見立て・指導を再検討する必要がある（図 2）。

先行研究では、児童・生徒の身体の使い方における課題を捉えるために「実態把握のための観察の視点（例）」を示し、身体の使い方に着目した視点を示した。

本研究では、先行研究で示した「実態把握のための観察の視点（例）」を基に、小学校・中学校において実態把握を実施し、通常の学級、特別支援学級、特別支援教室における知見を収集した。そして、より具体的に児童・生徒の身体の使い方の実態を把握し、課題を

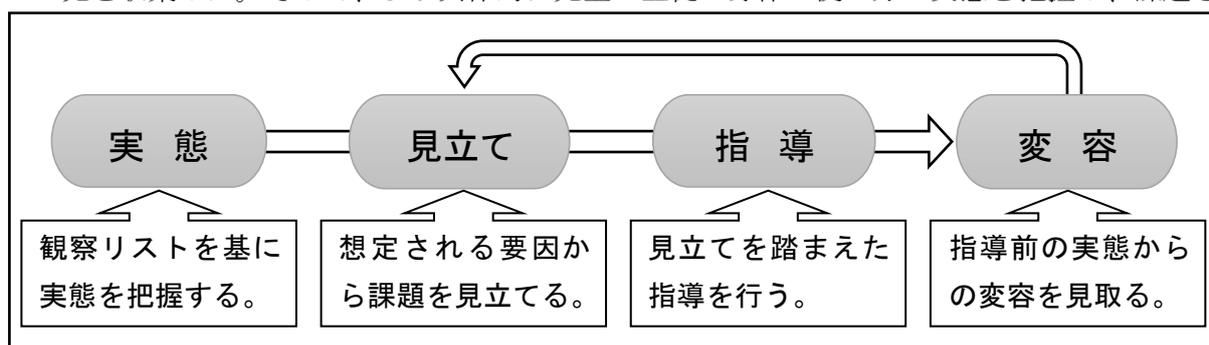


図 2 身体の使い方に着目した指導の過程

改善するための指導につながるように「観察リスト」（表1）を作成した。

「観察リスト」の作成に当たっては、全ての教員が、児童・生徒の実態を把握し、想定される背景や要因を見立て、その見立てを踏まえた指導目標・指導内容を設定することができるよう、分かりやすい表現や活用のしやすさ等を重点に検討した。全体の構成は、先行研究で示した「実態を把握するための視点（例）」を基にし、児童・生徒の身体の使い方の全体像をとらえ、課題となる身体の動きにより着目した実態把握ができるよう、次のように作成した。

- ・ 内容が類似している項目を整理するとともに、実態把握に必要と思われる項目を新たに追加し、観察項目を全11区分33項目に再構成した。
- ・ 4段階の評価により数値化・グラフ化することにより、指導・支援を優先する必要がある項目が分かるようにした。
- ・ 各項目に関連する具体的な姿や課題を改善する上で強みとなる特性を記入する欄や、家庭での様子・生育歴など、身体の使い方の背景や要因につながる事項を記入する欄を設けた。

この「観察リスト」を活用して、学習や日常生活の場面における身体の使い方の状態を観察し、身体の使い方の面での課題となる要因を的確に捉えることで、児童・生徒への適切な指導につながり、課題の改善に結び付くと考える。

実際に「観察リスト」を活用する際には、児童・生徒の身体の使い方のどこに着目し、どのように指導に結び付ければよいかを検討することが重要である。そこで、本研究では、小学校・中学校の通常の学級、特別支援学級（知的障害）、特別支援教室におけるこれまでの指導を基に収集した知見から、見立てをする上で参考となる視点を整理し、「観察の視点・想定される要因」（表2）としてまとめた。

表2には、項目ごとに「観察の視点」及び「想定される要因」の例を示した。観察する際の視点と、把握した姿から想定される要因を示すことで、「観察リスト」と同様に、障害の状態等に応じた適切な指導を行うために、的確な見立てを行うことができるように構成した。

「観察の視点」には、想定される児童・生徒の具体的な状態像の例を示した。項目によっては、発達段階により、児童・生徒の状態像が異なる場合があるため、その点についても記載した。「想定される要因」に関しては、一見同じ身体の使い方をしているようでも、児童・生徒一人一人の要因は異なる場合があることや、複数の要因が関連している場合があることから、複数の観点からの要因を例示している。本資料の活用を通じて、全ての教員が様々な可能性を想定して、身体の使い方を分析する「視点」をもち、見立てを踏まえた指導を行うための一助となることを期待している。ただし、ここで示した要因は例示であり、より詳しく要因を把握するためには、他の検査等を活用する必要があることに留意する。

「観察リスト」や表2を活用して見立てた児童・生徒の困難さを改善・克服するためには、図2で示したとおり、見立てを踏まえた指導目標・指導内容の設定が重要である。「IV 研究の内容 2 実践研究（1）」には、図2に示した実態から見立て、指導、変容の流れが分かるように、二つの事例を取り上げて示す。

表1 「観察リスト」

学年・氏名		記入者	年 月			
<b>身体の使い方に着目した実態把握のための観察リスト</b>						
※評価：できる→A (4点) ほぼできる→B (3点) あまりできない→C (2点) できない→D (1点)						
区分	項目	評価				
		A	B	C	D	
基礎足持	直立した姿勢を保持できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	直立姿勢で上半身を安定させることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	決まった位置で立っていることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	膝が曲がっているときに足を静止することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	足感を床等につけて座っていることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
準備姿勢	脚座に立ったり、座ったりすることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	背筋を真っ直ぐにして座ることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	安定した姿勢で体重座りができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	無敵を長るときに、膝と体の向きを正対させることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	教師の手本を見て、同じ動作ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
基本運動	模倣	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	教師の手本を見て、両手、両足を同時に動かすことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	前後、左右の位置関係を言葉の指示で理解して、動くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	片手でドッジボールを投げることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	投げられたボールを両手で受け取ることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	ボールを足で蹴ることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	両手両足を同時に動かすことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	両足を同時に動かすことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	両足を同時に動かすことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	両足を同時に動かすことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
日常生活動作	左右バランスよく歩くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	腕で支持して、身体を支えることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	掃除用具や掃除機などを適切に使うことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

鉛筆を適切に持ち、文字を書くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
クレヨンを適切に持ち、描画することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
筆記用具を持たない方の手がノートを押さえることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
持ちかたに鉛筆の握り方をすることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
紙をいためることなく、消しゴムで消すことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
適切な筆圧で書くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
箸やスプーンを適切に使うことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ハサミや定規を適切に使うことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
リボン結びなどの結び方を一人で行うことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
音や光に対して適度に敏感又は鈍感である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
周囲のことを適度に気にする又は気にしない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
気候や気温の変化に適度に敏感又は鈍感である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※適度な鈍感さの程度で評価する。  
 A (全く居心地が悪い)、B (あまり居心地が悪い)、C (ときどき居心地が悪い)、D (頻りに居心地が悪い)

- 観察した場面だけでなく、日々の学習場面や日常生活の様子から評価する。よりの確かな実態把握のためには、詳しい検査や各種チェックリスト等の実施が必要である。
- 「備考欄」には具体的な姿などを記入し、要因の見立てや、指導内容につなげる。
- 「家庭の様子や生活履歴など」は、課題となる身体の使い方の背景を捉えるために活用する。
- 実際に入力をした際のグラフは次のように表示される。身体の使い方の面での課題が明確になる。

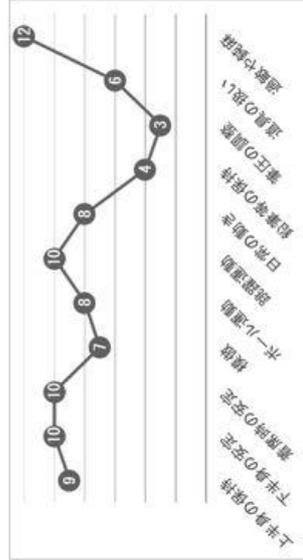


表2 観察の視点・想定される要因（例）

区分	項目	観察の視点(例)	想定される要因(例)	
姿勢保持	上半身の保持	直立した姿勢を保持できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>猫背や反った姿勢になっていないか</li> <li>前後左右に傾いていないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋肉の緊張状態の持続が難しい</li> <li>体幹部への力の入れ方が分からない</li> <li>身体の傾きをコントロールしにくい</li> <li>身体の部位の位置を理解しにくい</li> </ul>
		立位姿勢で上半身を安定させることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>上半身を静止して立っているか</li> <li>前後左右に揺れていないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋肉の緊張状態の持続が難しい</li> <li>体幹部への力の入れ方が分からない</li> <li>身体の傾きをコントロールしにくい</li> <li>自分の身体の動きがつかめていない</li> </ul>
		決まった位置で立っていることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>決まった位置から場所を移動していないか</li> <li>同学年と比較して、同時間直立姿勢を保持できるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋肉の緊張状態の持続が難しい</li> <li>身体の傾きや力加減をコントロールするために、無意識に動いている</li> <li>情緒が不安定な状態にある</li> </ul>
	下半身の安定	着席しているときに足を静止することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>膝を揺らしていないか</li> <li>足先を動かしていないか</li> <li>場面により静止できないことがあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の傾きや力加減をコントロールするために、無意識に動いている</li> <li>情緒が不安定な状態にある</li> <li>注意力・集中度が持続しにくい</li> </ul>
		足底を床等にあてて座っていることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>足を組んでいないか</li> <li>足の側面を床等にあてていないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋肉の緊張状態の持続が難しい</li> <li>体幹部への力の入れ方が分からない</li> <li>猫背など、身体に歪みがある</li> <li>机や椅子の高さがあっていない</li> </ul>
		即座に立ったり、座ったりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>よろけずに立ったり座ったりできるか</li> <li>「起立」、「着席」の指示の後に、すぐに動けるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体幹部への力の入れ方が分からない</li> <li>身体の傾きをコントロールしにくい</li> <li>身体の動きに関する理解が難しい</li> </ul>
	着座時の安定	背筋を真っ直ぐにして座っていることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>机に伏せていないか</li> <li>背中を椅子にもたれさせ、臀部が前方にきていないか</li> <li>骨盤がしっかり起き、背筋が真っ直ぐに伸びているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋肉の緊張状態の持続が難しい</li> <li>体幹部への力の入れ方が分からない</li> <li>身体の部位の位置を理解しにくい</li> <li>情緒が不安定な状態にある</li> </ul>
		安定した姿勢で体育座りができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢が左右に傾いたり、揺れたりしていないか</li> <li>床に手をついていないか</li> <li>足を交差して座っていないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体幹部への力の入れ方が分からない</li> <li>身体の傾きをコントロールしにくい</li> <li>身体の部位の位置を理解しにくい</li> <li>体型により体育座りの姿勢がとづらい</li> </ul>
		黒板を見るときに、顔と体の向きを正対させることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や黒板に向かって身体の向きを正対させているか</li> <li>板書の視写や対象物を見るときに、眼球の動きだけで全体を捉えているか</li> <li>座席の位置が変わっても、見る姿勢が変わらないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注意力・集中度が持続しにくい</li> <li>眼球を動かして見ることが難しい</li> <li>視覚機能に課題がある</li> </ul>
粗大運動	模倣	教師の手本を見て、同じ動作ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の指示がなくても、同じ動きができるか</li> <li>手本の動きを目で追うことができている</li> <li>手本との距離が離れても、同じ動きができるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の部位の位置を理解しにくい</li> <li>タイミングを調整することや動きの手順を考えることが難しい</li> <li>視覚情報の認知に課題がある</li> </ul>
		教師の手本を見て、両手、両足を同時に動かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>両手だけまたは両足だけで同じ動きができるか</li> <li>両手両足が同じ動き(グーパーなど)ができるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の部位の動かし方の理解が難しい</li> <li>身体の部位の位置を理解しにくい</li> <li>視覚情報の認知に課題がある</li> </ul>
		前後、左右の位置関係を言葉の指示で理解して、動くことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉だけで、方向の指示に適切に反応できるか</li> <li>時間がかかるが、適切に反応できるか</li> <li>教師の手本以外の視覚情報があればできるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の部位の位置を理解しにくい</li> <li>聴覚情報の認知に課題がある</li> <li>言葉の意味の理解が難しい</li> <li>左右が咄嗟に判断できない</li> </ul>
	ボール運動	片手でドッジボールを投げることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>投げる動作にぎこちなさはないか</li> <li>横向きの姿勢から、体重移動をしながら投げているか</li> <li>意図したところに投げているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きの手順を考えることやタイミングを調整することなどが難しい</li> <li>身体の上、左右をまたいだ各部位を調整させる動きが難しい</li> </ul>
		投げられたボールを両手で受け取ることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>向かってくるボールを目で追っているか</li> <li>受け取る動作にぎこちなさはないか</li> <li>例) 低学年・両腕と上体を使って、ボールを抱え込む</li> <li>例) 中学年以上・両手の手の平のみを使って下手で捕る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の部位の感覚を理解しにくい</li> <li>視覚機能が低下している</li> <li>タイミングを調整することや動きの手順を考えることが難しい</li> </ul>
		ボールを足で蹴ることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>蹴る動作にぎこちなさがないか</li> <li>例) 低学年・ボールを前に蹴ることができる</li> <li>例) 中学年・相手や狙ったところにボールを蹴る</li> <li>ボールを目で追っているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の上、左右をまたいだ各部位を調整させる動きが難しい</li> <li>身体の傾きをコントロールしにくい</li> <li>視覚機能に課題がある</li> </ul>
跳躍運動	屈伸運動ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>足裏を地面につけたまましゃがむことができるか</li> <li>膝の使い方や足首の柔軟性にぎこちなさはないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の動きをコントロールしにくい</li> <li>足首の柔軟性が低い</li> <li>筋肉の緊張状態の持続が難しい</li> </ul>	

粗大運動	跳躍運動	両足跳びができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>両足同時に床や地面から離れているか</li> <li>リズムよく両足で跳び続けられるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の動きをコントロールしにくい</li> <li>タイミングを調整することや動きの手順を考えるなどが難しい</li> <li>筋肉の緊張状態の持続が難しい</li> </ul>
	縄跳びができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>手と足を協応させ、つま先を使って跳んでいるか</li> <li>例) 低学年・5回以上連続して回旋動作ができる</li> <li>中学年以上・肘または手首を支点とした回旋動作ができ、着地の位置が一定である(1回1跳躍)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手首の柔軟性が低い</li> <li>体幹部への力の入れ方が分らない</li> <li>動きの手順を考えることやタイミング、力加減を調整することが難しい</li> </ul>	
	日常の動き	左右バランスよく走ることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>走り方にぎこちなさはないか</li> <li>直線をまっすぐ走ることができるか</li> <li>左右の腕振りのバランスがとれているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の上下、左右をまたいだ各部位を調整させる動きが難しい</li> <li>身体の傾きをコントロールがしにくい</li> <li>身体の部位の感覚の理解が難しい</li> </ul>
	腕で支持して、身体を支えることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>転倒の際に、腕で自分の身体を支えることができるか</li> <li>運動の場面等で、身体を腕で支えることができるか</li> <li>例) 腕で身体を支えて移動したり、前転したりできる</li> <li>跳び箱に両手をついて跳び乗ったり、跳び越えたりできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋肉の緊張状態の持続が難しい</li> <li>腕支持の力の入れ方が分らない</li> <li>身体の部位の位置を理解しにくい</li> </ul>	
	掃除用具や黒板消しなどを適切に使うことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>掃きたい方向にほうきを使って掃くことができるか</li> <li>雑巾やタオルをたたみ、左右の手で絞れているか</li> <li>適切な力加減で黒板消しを使い、上下左右に動かして消すことができるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正中線を越える動きが難しい</li> <li>身体の動きをコントロールしにくい</li> <li>動きの手順を考えることや力加減を調整することが難しい</li> </ul>	
	鉛筆等の保持	鉛筆を適切に持ち、文字を書くことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な持ち方(親指・人差し指・中指の三本)で鉛筆を保持し、小指側を机に固定し、親指側を動かして書いているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手や指で支えたり、握ったりする力加減の調整が難しい</li> <li>手指の動きを固定したり、協応させたりすることが難しい</li> </ul>
微細運動	筆圧の調整	クレヨンを適切に持ち描画することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記用具に合わせて握る力をコントロールできるか</li> <li>筆記用具を適切に持ち、自在に操作して描画できるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手や指で支えたり、握ったりする力加減の調整が難しい</li> <li>肩や腕の力が弱く、握る力が弱い</li> <li>触覚に過敏に反応しやすい</li> </ul>
	筆記用具を持っていない方の手が、ノート等を押さえることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の平でノート等を押さえているか</li> <li>左右の手の動きが適切に保持できているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の平で支える力が弱い</li> <li>左右異なる動きを、意図的に動かすことが難しい</li> </ul>	
	滑らかに鉛筆書きをすることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字が濃すぎたり、薄すぎたりしないで書けているか</li> <li>小指側を机に固定し、親指側を動かして書いているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手指の動きを固定したり、協応させたりすることが難しい</li> <li>視覚情報の認知に課題がある</li> </ul>	
	紙をいためることなく、消しゴムで消すことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>消した部分が薄くなっていたり、歪んでいたりしないか</li> <li>紙が破けていないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の部位の感覚の理解が難しい</li> <li>左右異なる動きを、意図的に動かすことが難しい</li> </ul>	
	適切な筆圧で書くことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆の芯がすぐに丸くならないか</li> <li>鉛筆やシャープペンシルの芯を頻りに折っていないか</li> <li>行や枠からはみ出さずに書けているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手や指で支えたり、握ったりする力加減の調整が難しい</li> <li>目と手、右手と左手を協応させて動かすことが難しい</li> </ul>	
	道具の扱い	箸やスプーンを適切に使うことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>上の箸だけを動かし、下の箸は固定できているか</li> <li>箸先を開いたり、すぼめたりして自在につまめるか</li> <li>適切な持ち方(親指・人差し指・中指の三本)でスプーンを握り、口まで食べ物を運べるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手指の動きを固定したり、協応させたりすることが難しい</li> <li>肩や腕の力が弱く、握る力が弱い</li> <li>触覚に過敏に反応しやすい</li> </ul>
リボン結びなどの紐結びを一人で行うことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線、折線、曲線の線上を切れるか</li> <li>左右の手を滑らかに、別々に動かしているか</li> <li>定規をずれないように押さえているか</li> <li>鉛筆を定規に当てられているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目と手、右手と左手を協応させて動かすことが難しい</li> <li>手先、指先の力加減の調整が難しい</li> <li>視覚情報の認知に課題がある</li> </ul>		
感覚調整	過敏や鈍麻	音や光に対して過度に敏感である	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の音や光に対して、過敏に反応することがあるか</li> <li>薄暗い部屋で作業することを好むか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚や視覚の感覚に過敏さがある</li> <li>情緒が不安定な状態にある</li> </ul>
	周囲のことを過度に気にする又は気にしない	<ul style="list-style-type: none"> <li>人が近づくことに過度に反応することがあるか</li> <li>周囲の動きに対して、過度に反応しているか</li> <li>人とぶつかっても気づかないことがあるか</li> <li>周りで大きな音がしても気にしないことがあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>触覚に過敏さがある</li> <li>聴覚や視覚の機能が低下している</li> <li>情緒が不安定な状態にある</li> </ul>	
	気候や気温の変化に過度に敏感又は鈍感である	<ul style="list-style-type: none"> <li>寒暖差が大きい日に落ち着かない、もしくは過度にだるそうにしていることがあるか</li> <li>季節に合わない服装でいることがあるか</li> <li>低気圧が近づくと落ち着かなくなることがあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>触覚に過敏さがある、または反応が出にくい</li> <li>情緒が不安定な状態にある</li> </ul>	
<p>* 過敏さや鈍感さの程度で評価する  A(全く見受けられない)、B(あまり見受けられない)、C(ときどき見受けられる)、D(頻繁に見受けられる)</p>				

2 実践研究

(1) 観察リストによる実態把握から、背景や要因を見立て、指導目標・指導内容を設定するまでの例

ア 姿勢保持に課題がある児童・生徒

プロフィール  
小学3年 特別支援学級(知的)  
知的障害



区分	項目	A	B	C	D	想定される要因	見立て	指導目標(○)・指導内容(●)	変容
上半身の保持	直立した姿勢を保持できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・体幹部への力の入れ方が分からない。 ・身体の傾きをコントロールしにくい。 ・身体の傾きや力加減をコントロールするために、無意識に動いている。 ・情緒が不安定な状態にある。	・正しい姿勢がイメージできず、姿勢が崩れているのであろう。 ・しっとして時間が見通せず、不安から身体を動かしてしまうのだから。	○正しい姿勢のイメージをつかみ、姿勢を保持する時間を延ばす。 ●ICT機器を使った写真等の撮影により、正しい姿勢が視覚的にイメージできるようにする。 ●タイマーで姿勢保持できた時間を記録することで、自己肯定感を高め、徐々に姿勢を保持する時間を延ばしていく。	・少しずつ姿勢を保持できる時間が伸びてきている。
	立位姿勢で上半身を安定させることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・身体の傾きや力加減をコントロールするために、無意識に動いている。 ・情緒が不安定な状態にある。 ・注意力・集中力が持続しにくい。 ・机や椅子の高さがあっていない。	・注意・集中が持続しにくく、姿勢を保持することから意識がすぐにそれてしまふ、姿勢が崩れるのであろう。 ・椅子が高いため、足底を床にあてることが難しいと考えられる。 ・身体の動きに自信がなく、指導を聞き入れることができないのであろう。(※1)	○姿勢を保持することによって意識を向けられるようにする。 ●姿勢を保持することから意識がそれないように、姿勢が保持できているとき、崩れそうなどに、それぞれ適切な言葉かけをする。 ●適切な高さの椅子に座り、足底を床にあてて座る姿勢をとれるようにする。	・声を掛けられると、自分から姿勢を直すことができなくなつた。 ・足底を床にあてて座ることができる時間が伸びた。
	決まった位置で立っていることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・身体の傾きや力加減をコントロールするために、無意識に動いている。 ・情緒が不安定な状態にある。 ・注意力・集中力が持続しにくい。 ・机や椅子の高さがあっていない。	・注意・集中が持続しにくく、姿勢を保持することから意識がすぐにそれてしまふ、姿勢が崩れるのであろう。 ・椅子が高いため、足底を床にあてることが難しいと考えられる。 ・身体の動きに自信がなく、指導を聞き入れることができないのであろう。(※1)	○姿勢を保持することによって意識を向けられるようにする。 ●姿勢を保持することから意識がそれないように、姿勢が保持できているとき、崩れそうなどに、それぞれ適切な言葉かけをする。 ●適切な高さの椅子に座り、足底を床にあてて座る姿勢をとれるようにする。	・徐々に正しい姿勢で座れる時間が増え、1.5分程度保持できるようになった。
下半身の保持	着席しているときに足を静止することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・筋肉の緊張状態の持続が難しい。 ・身体の傾きをコントロールしにくい。 ・身体の部位の位置を理解しにくい。 ・情緒が不安定な状態にある。 ・眼球を動かして見ることが難しい。	・体幹部への力の入れ方が分からず、姿勢が崩れやすいと考えられる。 ・正しい姿勢がイメージできず、姿勢が崩れているのであろう。	○正しい姿勢で座れる時間を延ばす。 ●力の入れ方を練習したり、筋肉の緊張状態を維持できるように椅子に滑り止めのシートを貼ったりする。 ●ICT機器を使って、写真や動画で自身の姿を撮影し、正しい姿勢をイメージさせる。	・徐々に正しい姿勢で座れる時間が増え、1.5分程度保持できるようになった。
	足底を床等にあてて座っていることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・筋肉の緊張状態の持続が難しい。 ・身体の傾きをコントロールしにくい。 ・身体の部位の位置を理解しにくい。 ・情緒が不安定な状態にある。 ・眼球を動かして見ることが難しい。	・体幹部への力の入れ方が分からず、姿勢が崩れやすいと考えられる。 ・正しい姿勢がイメージできず、姿勢が崩れているのであろう。	○正しい姿勢で座れる時間を延ばす。 ●力の入れ方を練習したり、筋肉の緊張状態を維持できるように椅子に滑り止めのシートを貼ったりする。 ●ICT機器を使って、写真や動画で自身の姿を撮影し、正しい姿勢をイメージさせる。	・徐々に正しい姿勢で座れる時間が増え、1.5分程度保持できるようになった。
	即座に立ったり、座ったりすることができる	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・筋肉の緊張状態の持続が難しい。 ・身体の傾きをコントロールしにくい。 ・身体の部位の位置を理解しにくい。 ・情緒が不安定な状態にある。 ・眼球を動かして見ることが難しい。	・体幹部への力の入れ方が分からず、姿勢が崩れやすいと考えられる。 ・正しい姿勢がイメージできず、姿勢が崩れているのであろう。	○正しい姿勢で座れる時間を延ばす。 ●力の入れ方を練習したり、筋肉の緊張状態を維持できるように椅子に滑り止めのシートを貼ったりする。 ●ICT機器を使って、写真や動画で自身の姿を撮影し、正しい姿勢をイメージさせる。	・徐々に正しい姿勢で座れる時間が増え、1.5分程度保持できるようになった。
着座時の姿勢	背筋を真っ直ぐにして座っていることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・筋肉の緊張状態の持続が難しい。 ・身体の傾きをコントロールしにくい。 ・身体の部位の位置を理解しにくい。 ・情緒が不安定な状態にある。 ・眼球を動かして見ることが難しい。	・体幹部への力の入れ方が分からず、姿勢が崩れやすいと考えられる。 ・正しい姿勢がイメージできず、姿勢が崩れているのであろう。	○正しい姿勢で座れる時間を延ばす。 ●力の入れ方を練習したり、筋肉の緊張状態を維持できるように椅子に滑り止めのシートを貼ったりする。 ●ICT機器を使って、写真や動画で自身の姿を撮影し、正しい姿勢をイメージさせる。	・徐々に正しい姿勢で座れる時間が増え、1.5分程度保持できるようになった。
	安定した姿勢で体背座りができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・筋肉の緊張状態の持続が難しい。 ・身体の傾きをコントロールしにくい。 ・身体の部位の位置を理解しにくい。 ・情緒が不安定な状態にある。 ・眼球を動かして見ることが難しい。	・体幹部への力の入れ方が分からず、姿勢が崩れやすいと考えられる。 ・正しい姿勢がイメージできず、姿勢が崩れているのであろう。	○正しい姿勢で座れる時間を延ばす。 ●力の入れ方を練習したり、筋肉の緊張状態を維持できるように椅子に滑り止めのシートを貼ったりする。 ●ICT機器を使って、写真や動画で自身の姿を撮影し、正しい姿勢をイメージさせる。	・徐々に正しい姿勢で座れる時間が増え、1.5分程度保持できるようになった。
	黒板を見るときに、顔と体の向きを正対させることができる	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・筋肉の緊張状態の持続が難しい。 ・身体の傾きをコントロールしにくい。 ・身体の部位の位置を理解しにくい。 ・情緒が不安定な状態にある。 ・眼球を動かして見ることが難しい。	・体幹部への力の入れ方が分からず、姿勢が崩れやすいと考えられる。 ・正しい姿勢がイメージできず、姿勢が崩れているのであろう。	○正しい姿勢で座れる時間を延ばす。 ●力の入れ方を練習したり、筋肉の緊張状態を維持できるように椅子に滑り止めのシートを貼ったりする。 ●ICT機器を使って、写真や動画で自身の姿を撮影し、正しい姿勢をイメージさせる。	・徐々に正しい姿勢で座れる時間が増え、1.5分程度保持できるようになった。

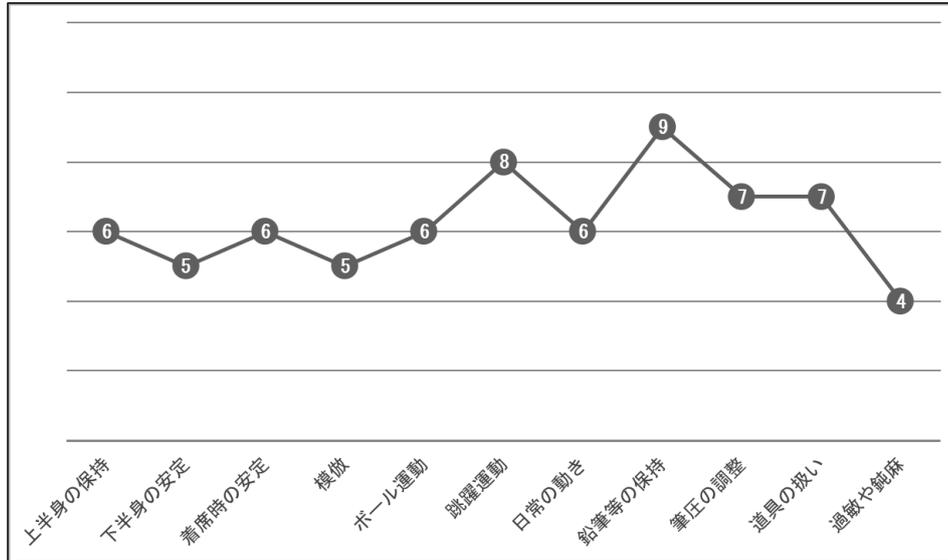
※1 身体の使い方への手だてと意欲を高める手だてを同時に行うことで、身体の使い方の課題に対して、より効果的な指導ができた。



(2) 検証授業①：通常の学級

プロフィール  
 校種・学年：小学校6年  
 障害種：自閉症スペクトラム（ASD）、注意欠陥多動症（ADHD）

ア 観察リストから把握した実態、見立て及び指導のポイント



実態	見立て	指導のポイント
<b>着席時の安定</b> ・姿勢が崩れやすく、座位姿勢を保持できる時間が同学年の児童と比較して短い。 ・学習の理解度により姿勢が崩れやすくなる。	・姿勢をコントロールする力が弱い（前庭覚のはたらき）。 ・体幹部への力の入れ方が分かりにくい。 ・情緒が不安定になりやすい。	・身体の傾きをコントロールする力を高める。 ・体幹部への力の入れ方を知る。 ・筋力をつける。 ・正しい姿勢の意識付けをする。 ・情緒の安定を図る。
<b>下半身の安定</b> ・足裏を床に付けずに座っていることが多く、着席時には、頻繁に足を動かしている。	・無意識に身体の一部が動いている。 ・筋肉の緊張状態を持続することが難しい。 ・情緒が不安定になりやすい。	・正しい姿勢の意識付けをする。 ・筋力をつける。
<b>過敏や鈍麻</b> ・大きな音等に過敏に反応し、その後、学習や活動に正対できないことがある。	・聴覚が過敏で、不安定になりやすい	・聴覚の過敏さに対する環境調整を行う（座席の配慮、イヤーマフの装着）。

イ 指導目標・指導内容

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢を保持して、着席できる時間を長くできるようにする。</li> <li>・聴覚への刺激を調整する方法が分かり、安心して学習に取り組める場面を増やす。</li> </ul>
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢に対する意識付けを図るために 学級全体に対し、視覚的な提示資料を用いて、姿勢保持に関する指導を定期的実施する。</li> <li>・授業中に着席時の正しい姿勢が保てるように 本児が常に意識できる箇所に姿勢チェックカードを提示する。支援を得ながら、本児が正しい姿勢を意識して一定時間保持できるように、机間指導で声かけやハンドサイン、アイコンタクトなどを行う。</li> <li>・聴覚の過敏さに対応し、情緒の安定を図るために 本児と事前に相談して、環境調整を行い、必要に応じてイヤーマフの装着を促す。</li> </ul>

## 実 態

### ○観察リストの結果から

- ・着席時の下半身の保持や姿勢の安定で、身体の使い方の面での課題がある。
- ・感覚調整に関して、特に音に対する過敏さがある。

### ○普段の学習の様子から

- ・着席時に姿勢を保持することが難しく、本児は姿勢が崩れていることに気付いていない。
- ・大きな音等に過敏に反応し、その後、学習や活動に取り組むことができないことがある。

## 見立て

### ○座位姿勢を保持することに対する課題

- ・本児なりに姿勢の傾きをコントロールしているため、無意識に身体が動いてしまい、姿勢が崩れていることに本児は気付いていない。正しい姿勢を保持したり、本児が意識して姿勢の崩れを直したりするために、教員からの言葉掛けや視覚的な手がかりなどによる意識付けが必要だろう。
- ・情緒が不安定になると、姿勢が崩れやすい。

### ○本児の特性や通常の学級の一斉指導に合わせた指導

- ・本児の強みである視覚優位の特性を生かした教材や支援の方法を工夫する。
- ・音への過敏な反応を軽減し、情緒の安定を図るため、環境調整を行う。
- ・本児の着席時の姿勢の改善に着目し、一斉指導や学校生活の中でできる手だてを講じる。

## 指 導

### ○導入の工夫

- ・学習のはじめに姿勢に関する資料と姿勢チェックカード（教材1）を提示しながら、学級全体で確認を行い、姿勢に対する意識付けを図る。
- ・学習の見通しを明確にし、学習中の不安を軽減すること、学習活動のポイントを理解すること目的に、「学習の流れ」（教材2）を提示する。

### ○姿勢に対する意識付け

- ・本児が自身の姿勢の崩れに気付いて直すとともに、未然に姿勢の崩れを防げるように、正しい姿勢が確認できる姿勢チェックカード（教材1）を作成し、本児が常に見られる位置に示す。  
※本時では、学習で使用するワークシート（教材3）内に示した。

教材1 姿勢チェックカード

- ①椅子に腰を深くかける
- ②足の裏を床にしっかりつける
- ③お尻は後ろに、腰骨はグッと前に出す
- ④下腹部に力を入れ、肩の力を抜いてあごを引く

### ○聴覚の過敏さへの対策

- ・本児と相談し、音声による刺激が少ない座席に配置する。
- ・学習中に必要に応じてイヤーマフを装着する。

### ○言葉掛けのタイミング

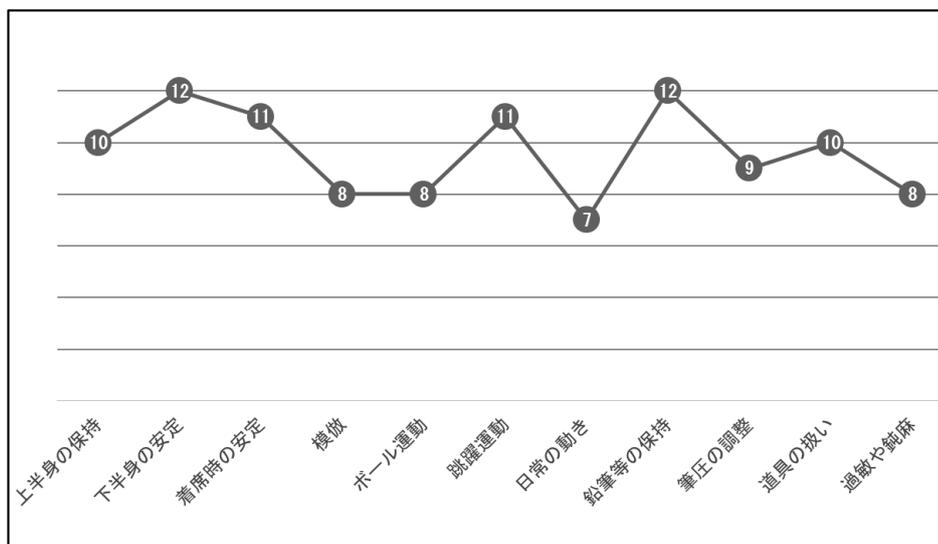
- ・学習中の不安感や活動への理解度等によって姿勢が崩れやすい傾向があるため、全体指導でのアイコンタクトや机間指導を行い、姿勢や学習の理解度・進捗について把握し、必要があれば声を掛ける。



(3) 検証授業②：特別支援教室

プロフィール  
 校種・学年：小学校3年  
 障害種：注意欠陥多動性障害

ア 観察リストから把握した実態、見立て及び指導のポイント



実態	見立て	指導のポイント
模倣 ・手本範の動き見て、同じ動きができないことが多い。	・上半身の姿勢の保持に必要な筋力が弱い。	・自分の体の動かし方を理解する。
ボール運動 ・投球時の姿勢が安定していない。 ・遠くへの投球や狙ったところへの投球ができない。	・運動機能の発達に左右差がある。 ・体の重心移動が難しい。 ・動きの手順を考えるとや力加減を調整することが難しい。 ・複数の部位を協調させて動かすことが難しい。	・投球に必要な動作を段階的に練習する。 ・一つずつの動きに慣れた後、複数の部位を連動させる動きに取組む。
跳躍運動 ・両足跳びはできるが、左右の足で交互に跳んでいくような運動の場合、次に出す足が分からなくなる。	・運動機能の発達に左右差がある。 ・動きの手順を考えるとや力加減を調整することが難しい。 ・複数の部位を協調させて動かすことが難しい。	・動きの手順を考えて、意図的に身体を動かす経験を積む。 ・少しずつリズムよく跳べるようにする。
日常の動き ・走る時の身体の左右のバランスが安定しない。	・足の筋力の発達に左右差がある。 ・左右をまたいだ各部位を調整させる動きが難しい。	・自分の体の動かし方を理解する。 ・右半身と左半身を連動させて動かす経験を積む。

イ 指導目標・指導内容

指導目標	左右の動きが異なる運動に対しての苦手意識を軽減し、身体を動かす学習への意欲を高める。
指導内容	・左右の動きを連動させる運動に親しむために 本児が視覚優位であるという特性を生かし、動きの手順が分かるように、教員による模範やイラストで動き方を示す。提示の際には、言葉を添えることで、動かすポイントが分かるようにする。 ・身体を動かす学習への意欲を高めるために 様々な活動を提示し、本児が選択して活動に取り組めるようにする。 (例：マットを使った運動、的当て、キャッチボール、ミニハードルなど)

## ウ 授業の概要

### 実 態

#### ○観察リストの結果から

模倣、ボール運動、日常の動きなど、粗大運動全般に課題がある。

#### ○普段の学習の様子から

体育の学習ではなわとびや鉄棒運動に課題は見られないが、走る運動やボール投げ運動は身体の動きがぎこちない。

### 見立て

#### ○左右の動きが異なる運動における課題

自身の身体の動きを客観的に捉えることが難しいことが要因となり、左右の動きが異なる運動に対して苦手意識があると考えられる。

#### ○本児の特性に合わせた体の動きの指導

本児の視覚優位である特性を生かした視覚情報を中心とした指導によって、身体を動かす学習への意欲の向上を図る。

### 指 導

#### ○スモールステップの指導

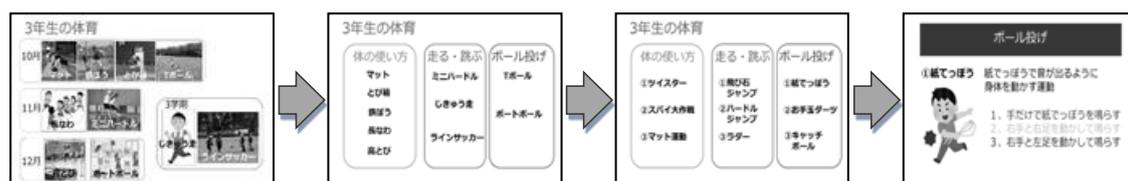
左右の動きが異なる運動への苦手意識を軽減するため、身体の片側を使う動きから、徐々に身体の左右を連動させた動きになるように、段階的に活動内容を構成し、成功体験を積むことができるようにした。

また、意欲の向上を図るため、運動内容や学習の段階を本児が選択できるようにした。

#### ○視覚情報を中心とした指導

本児の視覚優位である特性を生かし、学習の流れや運動の内容等をスライド資料（教材1）を用いて示した。また、取組み始めの動きと繰り返し運動した後の動きをタブレット端末で撮影し、身体の動きの変容を、本児が視覚的に確認できるようにした。

教材1 スライド資料



### 変 容

#### ○左右の動きが異なる運動について

視覚的な支援に加えて、ポイントとなる動きを言語化して伝えることで、本児が身体の動かし方を理解し、左右の動きが異なる運動について、ぎこちなさが徐々に改善された。

#### ○身体を動かす学習への意欲について

スモールステップで具体的な運動の課題を示し、成功体験を積み上げたことで、以前は途中で諦めてしまう場面でも最後までやり遂げる様子が見られた。

## エ 考察

児童の実態から身体の使い方の課題となっている要因を見立て、見立てを踏まえた指導を行ったことで、身体の使い方の課題改善が見られた。本児は成功体験を積むことができ、左右の動きが異なる運動に対する苦手意識が軽減するとともに、その他の学習意欲の向上にもつながった。今後も、変容から次の見立てを行い、継続して指導していくことが重要である。

## VII 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

#### (1) 見立ての参考となる実態を把握するための観点を整理したことについて

- ・ 実態を把握するための観点を整理したことにより、身体各部位、機能がどのように連動しているのかを改めて考えることができた。身体の使用方の面での課題について、分析的に実態を把握する意識が高まり、適切な見立てをすることができるようになった。
- ・ 観察リストの各項目について、想定される要因を挙げたことで、適切な見立てをする際の指標をもつことができた。児童・生徒の障害の特性を丁寧に考察することにより、障害の特性についての理解が深まり、障害に応じた指導につなげることができた。
- ・ 本研究において作成した観察リストは、専門的な知識や経験の少ない教員に活用しやすいように、分かりやすい表現となるよう工夫した。本リストの活用を通じて、全ての校種の教員が、児童・生徒の実態を把握する視点を身に付けたり、専門性の向上を図ったりすることにつながると考える。

#### (2) 見立てを踏まえた指導目標・指導内容を設定する過程を明らかにしたことについて

- ・ 観察リストの結果を数値化・グラフ化したことで、複数の課題から優先すべき指導項目が焦点化され、身体の使用方に対する課題改善を図る指導目標・指導内容の設定が円滑に行えるようになった。また、見立てを踏まえた指導目標・指導内容を設定する過程を明らかにしたことで、指導後の変容を受けて、見立てや指導内容の改善を行うことが容易になった。

#### (3) 知的障害や発達に課題のある児童・生徒への身体の使用方に着目した指導について

- ・ 指導前と指導後に観察リストを活用して指導の検証することで、児童・生徒のわずかな変容に気づきやすくなった。継続的に指導を行うことで、児童・生徒の身体の動きのぎこちなさなどが改善され、学習上又は生活上の困難さが改善された。
- ・ 特別支援教室での指導では、在籍学級の学習と関連付けた指導を行い、身体の使用方が改善されたことにより、児童の自信が高まり、体育の授業に対する不安が軽減された。また、他の学習にも意欲的に取り組めるようになった。
- ・ ICT機器（動画撮影）を利用し、視覚的に児童にフィードバックしたことで、児童が客観的に自身の変容を把握し、意欲の向上につなげることができた。
- ・ 通常の学級の一斉指導においても、姿勢を保持することを意識できるよう、個別の手立てを講じることで、学習意欲の向上につながった。

### 2 今後の課題

観察リストを作成する過程で、発達段階により観察の視点が変わる箇所があり、背景や要因も非常に複雑で多様であることが分かった。観察リストがより実態に即したツールとして活用できるよう、多くの検証事例を分析し、より細分化した観察の視点や想定される要因を示していくことが今後の研究課題である。

児童・生徒の身体の使用方の指導の充実に向けては、個々の実態に応じたより正確な見立てが必要である。校種にかかわらず、全ての教員が適切に見立て、見立てを踏まえた指導を行えるように、実践を通して、本研究の成果を普及することが必要である。

## 令和3年度 教育研究員名簿

### 特別支援教育・発達障害等教育

学 校 名	職 名	氏 名
中央区立豊海小学校	主任教諭	石井 東子
目黒区立中目黒小学校	主任教諭	◎ 峯村 幸信
渋谷区立加計塚小学校	主任教諭	齋藤 梓
杉並区立三谷小学校	主任教諭	城石 敬士
練馬区立光が丘春の風小学校	主任教諭	大塚 侑
調布市立布田小学校	主任教諭	加藤 綾
国分寺市立第七小学校	主任教諭	稲村 望
国立市立国立第六小学校	主任教諭	友辺 創真
世田谷区立深沢中学校	主任教諭	大和田 健二
立川市立立川第六中学校	主任教諭	佐藤 鈴代

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課  
指導主事 魚谷 有里

令和3年度  
教育研究員研究報告書  
特別支援教育・発達障害等教育

令和4年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849